

資本効率化フォーカス・ジャパン

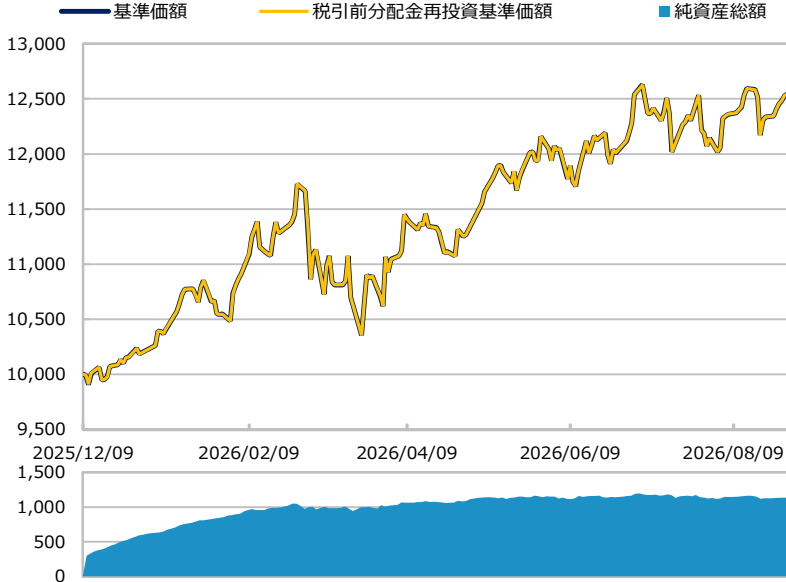
追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

ファンド設定日：2025年12月10日

日経新聞掲載名：資効Fジャパ

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	12,580	+437
純資産総額（百万円）	112,265	-782

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド
1 ヵ月	2026/07/31	3.6
3 ヵ月	2026/05/29	3.5
6 ヵ月	2026/02/27	7.3
1 年		
3 年		
設定来	2025/12/10	25.8

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
設定来累計		

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	99.6	+0.1
先物等	0.0	0.0
現金等	0.4	-0.1
合計	100.0	0.0

基準価額の変動要因（円）

	計	インカム	キャピタル
株式	+452	+13	+440
先物等	0	0	0
分配金	0	-	-
その他	-15	-	-
合計	+437	+13	+440

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
 ※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

ご参考 市場動向

TOPIX（東証株価指数、配当込み）



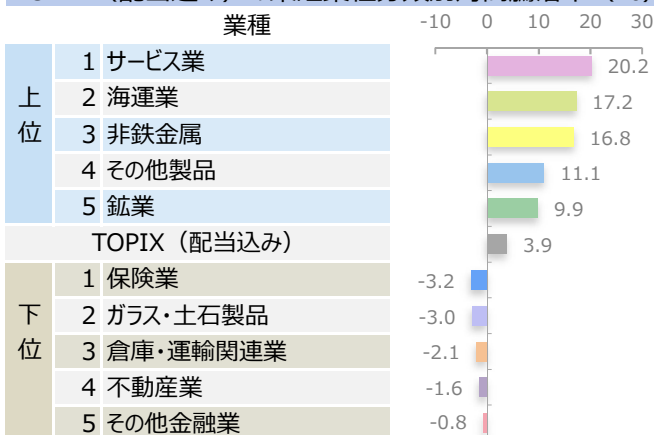
当月末：7,417.2 前月末：7,142.2 騰落率：3.9%

日経平均株価（日経225）（円）



当月末：66,311.9 前月末：64,362.0 騰落率：3.0%

TOPIX（配当込み）の東証業種分類別月間騰落率（%）



※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

市場動向

2026年4-6月期の企業業績が総じて良好であったほか、米国で経済指標の下振れにより利上げ観測が後退したことが支えとなり、史上最高値を更新しました。その後、中東情勢緊迫化による原油高、内外長期金利の上昇を受けて下落する場面もありましたが、企業業績のさらなる改善期待、米大手半導体企業の好決算などが下支えとなりました。月末に、米国ではFRB（米連邦準備制度理事会）議長の講演で利上げ観測が再燃しましたが、国内株式市場は底堅く推移しました。業種別では、サービス業、海運業、非鉄金属などが市場をアウトパフォームした一方、保険業、ガラス・土石製品、倉庫・運輸関連業などがアンダーパフォームしました。

市場見通し

国内株式市場は、高値圏でもみ合う展開を予想します。

世界景気はAI投資の拡大や主要各国の拡張的な財政政策が支えとなり底堅く推移し、国内景気も政府の景気対策や根強い設備投資により拡大が続く見通しです。底堅い内外景気を背景とした良好な企業業績に加え、高市政権の成長戦略やガバナンス（企業統治）改革も株価の下支え要因になると考えます。一方、中東情勢を巡る不透明感、内外長期金利の上昇、日米金融政策の先行きに対する警戒などが、当面の上値を抑える要因になると考えます。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

ポートフォリオ特性値

	ファンド	市場
予想配当利回り（％）	2.6	2.1
予想ROE（％）	8.7	10.5
予想PER（倍）	15.9	17.9
実績PBR（倍）	1.4	1.9

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 「市場」はTOPIXの値を表示しています。

※ ROEは自己資本利益率、PERは株価収益率、PBRは株価純資産倍率を指します。

※ ROEはPBR÷PERで算出。

※ NPMのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比	
1 電気機器	13.1	-0.0	13.1
2 銀行業	12.8	+1.1	12.8
3 機械	11.3	+0.3	11.3
4 化学	7.8	-0.3	7.8
5 情報・通信業	7.3	-1.0	7.3
6 不動産業	5.7	+0.1	5.7
7 小売業	5.6	-0.1	5.6
8 輸送用機器	4.8	-0.7	4.8
9 陸運業	4.6	+0.2	4.6
10 建設業	4.1	-0.0	4.1

※ 業種は東証業種分類です。

着眼点別構成比率（％）

	当月末
グループ企業の資本構成見直し	34.7
外部資本協働による企業価値向上	32.2
経営陣の経営コミットメント強化	32.7

※ 三井住友DSアセットマネジメントによる分類です。



資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 102）

銘柄 業種	比率	コメント
1 ローム 電気機器	2.2	大手電子部品メーカー。自動車や産業機器向けのパワー・アナログ半導体に強みを有する。
2 滋賀銀行 銀行業	2.0	滋賀県を中心に展開も、他エリアでの事業拡大にも積極的。
3 しずおかフィナンシャルグループ 銀行業	2.0	大手地銀の静岡銀行が中核の金融グループ。証券やリース、コンサルなども擁する。
4 いよざんホールディングス 銀行業	2.0	伊予銀行が中核の金融グループ会社。造船業向けのシップファイナンスに強み。
5 京セラ 電気機器	1.9	大手電子部品メーカー。半導体、産業機械、自動車、情報通信関連市場など、様々な市場向けに製品を展開。
6 ジェイテクト 機械	1.9	自動車用ステアリングシステムと軸受を主力とする自動車部品メーカー。トヨタグループの一翼を担い、電動パワーステアリングや駆動系部品で高いシェアを持つ。工作機械事業も展開。
7 日清紡ホールディングス 電気機器	1.8	無線通信機器や輸送機器用のブレーキ摩擦材など、幅広く事業を展開。
8 セイノーホールディングス 陸運業	1.8	総合物流大手。路線貨物輸送を主力に、宅配便、国際物流、引越サービス、自動車販売など幅広い事業を展開。
9 フェローテック 電気機器	1.8	半導体ウエハ・装置向けの部品製造などを手掛ける。真空シールや石英製品、セラミックス製品が主力製品。積極的な設備投資により高い成長率を実現。
10 豊田通商 卸売業	1.8	総合商社。事業分野では自動車関連、地域ではアフリカに強みを有する。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

運用経過

資本効率向上へ向けた企業の施策の変化に注目し、投資を行いました。

具体的には、親子上場の解消などを通じて資本効率向上を図る企業を対象とした「グループ企業の資本構成見直し」、株主との対話や他企業との協業などによって資本効率向上を目指す企業が含まれる「外部資本協働による企業価値向上」、独自に資本効率向上へ向けた施策を実施したり、非上場化によって中長期的な企業価値向上を目指す企業が該当する「経営陣の経営コミットメント強化」の3つの視点に基づき投資先企業を選定しました。当月は投資先企業のうち1社に対してTOB（株式公開買付け）が公表されました。

今後の運用方針

今回は7月から8月にかけて公表された企業の決算に対する見方と今後の運用方針についてお伝えします。

2・3月決算のTOPIX採用企業の第1四半期決算は、大幅な増収増益となり、好決算でした。ただし、混乱する中東情勢の長期化を背景とした前倒し発注がみられたことや、資源価格上昇前に調達した安価な在庫が払い出されたこと、前年には米国関税の影響や急激な円高の進行があったことなど一過性の好材料も観測され、実態以上に見栄えのよい決算であったと総括しています。

一過性の好材料の剥落に加え、インフレの進行やサプライチェーン（供給網）の混乱など企業経営を取り巻く環境は厳しさを増していることから、従来通り、今後は企業間の業績格差が拡大すると予想しています。

そのような環境下で、当戦略では一部の企業の利益確定売りを進める一方、不透明な外部環境を乗り越える事業競争力がある企業や、構造改革を進める企業など、資本効率の改善が期待できる割安な企業へ投資資金を一層集中させています。

私が注目しているのはファンド設定時から変わらず、資本効率の改善が期待できるか否かです。

事業環境や株式市場の物色の変化は早く、激しいですが、市況変動などを背景にした短期的な好業績、物色の変化による株価の上昇は持続性がないと考えています。むしろ不透明な環境下だからこそ、目先の変化に振り回されず、着実に稼ぐ力（＝資本効率）を向上させられる企業に注目すべきだと考えています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

ファンドの特色

1. 日本の取引所に上場している株式の中から、主として資本関係の変化等により資本効率や企業価値の向上等が期待できる企業の株式に投資します。
 2. 銘柄選定にあたっては、PBR（株価純資産倍率）や株式時価総額に対する利益の水準、株主構成等の定量面での分析を行います。また、株主構成の変化の可能性等の定性面にも着目します。
 ＊ PBR（株価純資産倍率）とは
 株価を1株当たり純資産で割ったもので、株価が割安か割高かを判断するための指標です。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

【分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがいさかった場合も同様です。

資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

投資リスク

その他の留意点

- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。

信託期間

2030年12月10日まで（2025年12月10日設定）

決算日

毎年12月10日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの対象ではありません。
- 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。



資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.30%（税抜き3.00%）を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の基準価額に0.30%を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年1.573%（税抜き1.43%）の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※ 上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター：0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 株式会社S M B C信託銀行
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

資本効率化フォーカス・ジャパン

追加型投信／国内／株式

作成基準日：2026年08月31日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本S T O 協会	備考
S M B C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○	○	

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用